

## 宗教法人大本・人類愛善会パブリックコメント

### 【意見の概要】

福島原発事故は11年半が経過した今も収束せず、放射能の漏洩が続いている。地震国日本で原発事故を防ぐのは不可能。核廃棄物の処理方法や処分場の問題も未解決。原発よりも国民の生命を守ることが大事である。安全で安定供給可能な自然エネルギーへの転換を急ぐべき。原発を推進する政府の方針に強く抗議する。稼働中の原発は即時停止し、国内外全ての原発の廃炉を進めていくべき。

### 【意見】

東日本大震災による事故で福島第一原子力発電所の原子炉は制御不能となり、放射性物質の流出を止めることが出来ない事態に陥った。このことは、それまで国および電力会社の「安全性は確保されている」という言葉を信じて原発の恩恵に浴してきた国民に、原発というものの恐ろしさを改めて知らしめるものとなった。

事故から既に11年半が経過したが、同原発の廃炉作業や除染作業は終わっておらず、いまだ収束には程遠い状況である。にもかかわらず、脱炭素を名目に60年を超える原発の運転を実質可能とする行動指針が認められたことは、大変遺憾である。

地震大国である日本で再び原発事故が起こらない保証はない。核廃棄物の処理方法や最終処分場の問題も、未解決のままである。人間の手で制御できない危険な原子力に依存するのではなく、地球環境を損なわない自然エネルギーへの転換を急ぎ、その研究開発に知恵と政府予算を注ぐべきである。

“いのち”を育むのに必要な大地や水、空気を放射性物質で汚してはならない。放射性物質は自然環境や生態系に多大な悪影響を与え、人間だけでなく、生きとし生けるものすべての“いのち”を脅かすものである。原発事故の恐ろしさが実証された今、大自然の恵みである天然力、自然力を用いた真に安心、安全なエネルギーの開発と利用に大きく方向転換すべきである。同時に私たち一人ひとりが心の在り方、考え方、生き方、日々の生活

の在り方を省み、自然から与えられた火・水・土・空気の恩恵に心から感謝し、これらを無駄にせず、慎ましやかな生活を心がけ地上の生きとし生けるものを傷つけることのない社会を作っていかなければならない。

宗教法人大本および人類愛善会は、福島原発事故の教訓をないがしろにして原発利用を推進しようとする政府の方針に強く抗議する。稼働中の原発は即時停止し、日本政府がリードしてすべての原発の廃炉を進めていくべきである。同時に、原子力に替わる安全で自然環境に適合し、安定供給可能なエネルギーの研究開発を一層推進するとともにその利用を促す政策を実行すべきである。